

伊豆諸島鳥島近海産ベニオキナエビス
(オキナエビスガイ科)

蟹江康光*・倉持卓司**

Mikadotrochus hirasei
(Pleurotomariidae, Mollusca)
from the waters off Torishima,
Izu Islands.

KANIE Yasumitsu* and
KURAMOCHI Takashi**

ベニオキナエビス *Mikadotrochus hirasei* は、土佐沖を模式産地として記載されたオキナエビスガイ科Pleurotomariidae の1種であり、銚子沖から東シナ海までの水深50~350 mに分布する(山本, 1993)。本報告では、伊豆諸島鳥島近海より採集されたベニオキナエビスの試料をもとに若干の知見を示す。本報告にあたり、試料を快くご提供くださった「第1 アデコ」の清水俊宏氏に感謝する。

試料

ベニオキナエビス *Mikadotrochus hirasei*
(PILSBRY)

標本番号: YCM-H8753~8760 (8個体)

産地: 伊豆諸島鳥島沖元録海山 (N38° 58' 58.47", E134° 00' 27.65"), 水深241~243 m。

(1997年11月3日採集)

生息環境: 海山の山頂付近, 水深241~243 mの平坦な砂礫帯にかなりの個体数が生息し, 尋常カイメン類・ヤギ類・フクロウニ類が同一環境で観察された(清水氏の私信)。

結果

試料の計測結果をTable 1に示す。検討試料中の最大個体(YCM-H8753)は、殻高(H) 67.7 mm,

殻径(D) 59.4 mm。最小個体(YCM-H8754)は、殻高52.1 mm, 殻径48.7 mmであり, 螺層(Vol)は, 最大個体で11巻, 最小個体で9巻までを数えた。スリットの長さ(SI)は, 最大個体で28.5 mm。最小個体で21.8 mmとなり, 殻の大きさに比例する。殻高(H)/殻径(D)の比率は1.05~1.14の範囲内で, 鈍角円錐形型であった。

殻高と殻径の計測値から鳥島沖ベニオキナエビスガイ個体群より求められた平均相対成長式は $H=0.95D^{1.04}$ であった(Fig. 1)。

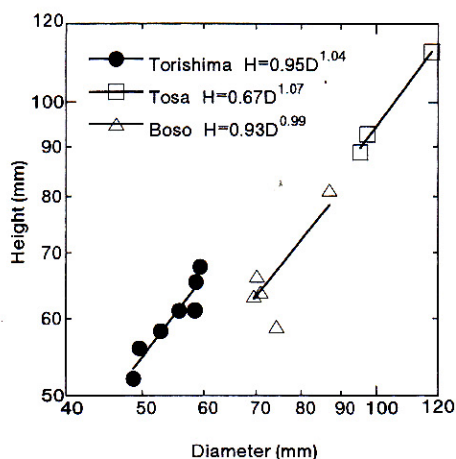


Fig. 1 Ratio height against diameter of *Mikadotrochus hirasei*.

考察

房総半島沖, 土佐沖より採集された個体群より求めた平均相対成長式(Fig. 1)を比較として用い, 各海域の変異について検討した。

土佐沖 $H=0.67D^{1.07}$, 房総半島沖 $H=0.93D^{0.99}$ となり, 各個体群の平均相対成長は近似している。殻の大きさは, 土佐沖, 房総半島沖, 鳥島沖個体群の順に小さくなる傾向が認められる。

今回, 鳥島沖で観察されたベニオキナエビスガイの生息環境は砂礫帯であり, 岩礁帯を中心に生息するとオキナエビスガイ *M. beyrichii* (倉持ほか, 1995; 蟹江ほか, 1984, 1995), コシダカオキ

* 横須賀市自然・人文博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka 238-0016.

** 横須賀市自然・人文博物館気付 c/o Yokosuka City Museum, Yokosuka 238-0016.

原稿受付 1998年10月8日。横須賀市博物館業績第523号。

キーワード: ベニオキナエビス, オキナエビスガイ科, 軟体動物, 鳥島, 伊豆諸島 Key words: *Mikadotrochus hirasei*, Pleurotomariidae, mollusca, Torishima, Izu Islands.

Table 1. Shell morphology of *Mikadotrochus hirasei* from the waters off Torishima.

Sample No.	Vol	D (mm)	H (mm)	H/D	Lh (mm)	Sl (mm)
YCM-H8753	11	59.4	67.7	1.14	27.3	28.5
YCM-H8754	9	48.7	52.1	1.07	18.0	21.8
YCM-H8755	6+	61.6	57.3+	—	24.6	25.1
YCM-H8756	11	58.7	65.4	1.11	23.6	29.2
YCM-H8757	10	49.6	56.0	1.13	21.9	24.6
YCM-H8758	10	55.8	61.1	1.09	26.2	21.6
YCM-H8759	10	58.5	61.2	1.05	24.7	20.6
YCM-H8760	10	52.9	58.3	1.10	23.7	14.7

ナエビスガイ *M. salmianus* (蟹江ほか, 1997) の生息環境とは異なる。また, 更新世の琉球石灰岩より産出したベニオキナエビスガイの生息環境は, 今回の採集記録と一致する (蟹江ほか, 1998)。

日本周辺海域に生息するオキナエビスガイ属 *Mikadotrochus* 3種のうち, オキナエビスガイは銚子沖から熊野灘まで分布するのに対し, コシダカオキナエビスガイは熊野灘から東シナ海へかけて分布し, これら2種は岩礁帯を中心とした類似の環境に生息するため地理的なすみわけを行っていると考えられている。これに対し, ベニオキナエビスガイは岩礁帯から砂礫帯までの幅広い環境に生息するため (蟹江ほか, 1995), 銚子沖から東シナ海までの広範囲に分布を広げることが可能となり, オキナエビスガイとコシダカオキナエビスガイの分布域と重複する分布型となっていると考えられる。

相模湾および房総半島沖におけるオキナエビスガイ科の分布と生息環境, 第12回しんかいシンポジウム予稿集: 107-109.

山本愛三 1993. 東シナ海の貝類相. 九州の貝, (40-41): 51-73.

引用文献

- 蟹江康光・池田 等・渡辺富夫 1984. オキナエビスガイ殻の南関東海域における形態変異. 横須賀市博研報(自然), (32): 51-56.
- 蟹江康光・服部陸男・倉持卓司・池田 等 1995. オキナエビスガイ科の生態と殻の系統分類. JAMSTEC 深海研究, (11): 279-283.
- 蟹江康光・倉持卓司・服部陸男 1997. 伊豆諸島鳥島海域産コシダカオキナエビスガイ. 横須賀市博研報(自然), (45): 65-66.
- 蟹江康光・倉持卓司・間嶋隆一 1998. 奄美群島, 喜界島の更新世琉球石灰岩産ベニオキナエビス, ちりぼたん, (28): 79-81.
- 倉持卓司・蟹江康光・服部陸男・池田 等 1995.